

大歩危リバーフェスティバル 2025兼吉野川レースラフティング全日本選手権大会
(ワールドマスターズゲームズ 2027 関西オープン競技プレ大会)参加規則

2026年1月10日施行

作成者 三好ラフティングプロジェクト

(1) チームの構成	2
実施カテゴリー	2
メンバー構成	2
チームメンバーの数	2
参加選手の交替	2
メンバーの追加と変更	2
チームの構成	2
チームの代表者	2
(2) 参加資格	2
参加資格	2
大会期間中の注意	2
(3) 大会期間中の事故等の責任	3
行動責任	3
安全行動義務	3
(4) 競技に使用する機材についての規定	3
ラフトボート	3
スローバッグの所持	3
ライフジャケット・ヘルメット・パドルの基準	3
安全装備の義務	4
(5) 競技中の写真、ビデオ撮影	4
写真、動画の許可	4
肖像権の放棄	4
(6) 競技要項	4
競技ルール	4
各競技ポイント	4
総合順位の決定	5
各種目の競技細則	5
スプリント	5
H2H	5
スラローム	5
ダウンリバー	5
競技判定に対する抗議（プロテスト）	6
ゼッケンの着用	6

(1 1) 水位規定	7
------------------	---

(1) チームの構成

実施カテゴリー

オープンカテゴリーのみ

メンバー構成

1チーム4人、チーム内の男女比は自由とする。

チームメンバーの数

各チームは大会期間中4名の選手及びサブメンバー2名、計6名以内の登録が認められている。大会期間中3名以下となるチームは、リザルトには反映しないかつチームの順位はつかず種目の獲得ポイント無し。

参加選手の交替

参加チームの選手名簿にある人員の交替は届け出なく変更することが可能である。ただし、同一種目内での変更はできない。

メンバーの追加と変更

2026年3月13日(金)の受付終了後、サブメンバーの追加ならびに選手の変更は不可能とする。選手名簿にないものが出場した場合、そのチームは失格となり、発覚後のレースには出場できない。

チームの構成

出場カテゴリーの年齢制限に合わない選手が含まれていた場合は、そのチームは失格となり、発覚後のレースには出場できない。

チームの代表者

各チームには、チームの代表権を有するキャプテンを1名置き、大会期間中の連絡事項等をチーム員に連絡し、スムーズな運営に協力する。キャプテンミーティングへの参加はキャプテンまたはチーム代表者1名のみとする。ただし、やむ得ない事情により大会主催者側から事前に了承を受けたチームは最大2名まで参加できることとする。

(2) 参加資格

参加資格

参加チームの構成者は、18歳以上かつ競技コースを安全に航行する技能がある者で、各チームのキャプテンがその責任に於いて、これを認めたものに限る。

大会期間中の注意

参加者は大会期間中、体調管理に努め、万全のコンディションをもって競技に参加すること。体調不良などで出場が厳しい場合は、大会主催者に判断によって以降のレースへの参加を制限されることもある。その場合は、主催者からチームキャプテンに伝達する。

（３）大会期間中の事故等の責任

行動責任

大会参加者は、大会期間中の行動を自身の責任で行い、大会主催者やチームキャプテンにその責任を問わない。

安全行動義務

大会参加者は自身の責任で参加すること。イベントスポンサー、大会主催者、レースオフィシャルのいずれも、競技中に発生した事故や損害（人的損害、および物的損害を含む）について責任を負わない。イベントスタッフおよび競技者を含むすべての参加者は、事故や損害のリスクを最小限にするために、常に安全を意識して行動する義務がある。

（４）競技に使用する機材についての規定

すべての競技者は、自分の個人的な安全装備を用意しなければならない。この装備は大会期間中、水の上にいる間は常に使用しなければならない。個人用安全装備は材料の品質を保証し、業界標準を満たしている公認の製造業者のものでなければならず、製造業者が推奨または承認していない方法で、装備の構造、形状、構成を変更してはならない。

ラフトボート

1. 使用ボートの大きさについての規定は特に設けない。
2. 使用ボートはインフレーターボートに限る。
3. 競技種目によって使用ボートを変更することは認められない。
4. 板、ポール等を装着し、全長、全幅を故意に変更することは認められない。
5. 足や体を固定する目的でのロープ、紐の設置は認められない。
6. カメラ設置を目的としたポールの取り付けは、安全面に関して自己責任で使用を認める。
7. ボートは各チームの持ち込みとする。

スローバッグの所持

出場チームは、1本以上のスローバッグを所持しなければならない。スタート時にスローバッグを所持していない場合のスタートは認められない。

ライフジャケット・ヘルメット・パドルの基準

1. ホワイトウォーター用に設計されたライフジャケットが望ましい。劣化が激しく浮力がないと判断されたライフジャケットは使用できない。ライフジャケットを正しく着用していないチームは出場できない。
2. ホワイトウォーター用に設計されたヘルメットが望ましい。ヘルメットを着用していないチームは出場できない。
3. T グリップのあるラフティング用パドルが望ましい。予備パドルの積載は認められる。

安全装備の義務

自然の川を利用した競技場では、すべての種目において、少なくとも 1 人のチームメンバーが、以下の最低限のチーム安全装備を携行することが義務付けられている。

1. フリップライン
2. スローバッグ
3. リバーナイフ。リバーナイフは片手で操作できるようにする。
4. ホイッスル。水に濡れた場合でも音が出るもの。
5. 外部との連絡が取れる携帯電話

（５）競技中の写真、ビデオ撮影

写真、動画の許可

大会期間中を撮影した写真、ビデオ等には、参加者個人の意思の確認なく使用することを固く禁じ、個人的記録以外の目的に使用する際は、主催者の許可を必要とする。ただし、主催者の認める個人または報道機関についてはその限りではない。

肖像権の放棄

主催者が撮影する大会期間中の写真、ビデオ等を主催者が大会の目的に使用する場合に限り参加者はその肖像権を放棄する。

（６）競技要項

競技ルール

各種目の競技ルールについては、IRF（International Ringette Federation）および WRF（World Ringette Federation）が定める最新の公式ルールを基本とする。ただし、本大会の運営方針に基づき、一部については本大会独自のルールを適用するものとする。本大会独自のルールおよび運用上の詳細については、大会当日に実施するキャプテンミーティング等において説明する。

各競技ポイント

各種目の1位の競技ポイントは以下の通り。

- スプリント 100ポイント
- H2H 200ポイント
- スラローム 350ポイント
- ダウンリバー 350ポイント
- 合計 1000ポイント

各チームに付与されるポイントは、当該種目における最大獲得ポイントに対する割合に基づき算出し、小数点以下を四捨五入して整数とする。得点配分は以下のとおりとする。

1位：100%

2位：92%

3位：86%

4位：82%

5位から18位まで：順位が1つ下がるごとに3%ずつ減算する

19位から32位まで：順位が1つ下がるごとに2%ずつ減算する

33位から42位まで：順位が1つ下がるごとに1%ずつ減算する

43位以下：最大獲得ポイントの1%を付与する

出走および完走に関する取扱い

1. レースに出走しなかったチーム（DNS）は、当該レースにおいて得点およびポイントを付与しない。
2. レースを完走しなかったチーム（DNF）は、当該レースにおいて得点およびポイントを付与しない。

総合順位の決定

総合順位は4種目（スプリント、H2H、スラローム、ダウンリバー）の総合獲得ポイントによって決定する。ただし、水量の変化などやむを得ない状況で期間中に全競技の実施ができない場合は実施された競技の獲得ポイントによって順位を決定する。

各種目の競技細則

各種目の競技ルールについては、IRF（International Ringette Federation）および WRF（World Ringette Federation）が定める最新の公式ルールを基本とする。ただし、本大会の運営方針に基づき、一部については本大会独自のルールを適用するものとする。本大会独自のルールおよび運用上の詳細については、大会当日に実施する代表者会議等において説明する。競技の内容については水量、ボート数等によって変更する可能性がある。

スプリント

- 2本2採用

H2H

- スプリントの結果によって対戦の組み合わせ決定
コース内にポール又はブイを設置
- 故意の妨害、故意のゲート接触はペナルティが課される
- 妨害行為等により失格となったチームは H2Hでの獲得ポイントをすべて失う

スラローム

- 2本1採用

ダウンリバー

- スタート方法は複数ボートによる同時スタート
- 水量などのコンディ ションによって大会主催者が決定し、レース当日のキャプテンミーティング で発表する
- スタートラインを設置し、出場チームはスタートラインの上流側で待機。ただし、当日の水量の変化などによって変更になる場合もある

競技判定に対する抗議（プロテスト）

1. 競技の判定に対して抗議（以下「プロテスト」という）を行う場合、当該チームは大会本部またはプロテスト受付専用スタッフに、口頭で抗議内容を申し出るものとする。必要に応じて、各チームが撮影した映像等を資料として提出することもできる。
2. 本大会では、プロテスト制度の適正な運用を目的として、3月20日の受付時に各チームより預託金10,000円を徴収する。この預託金は、必要に応じてプロテストを行うためのもので、1チームにつき最大2回までのプロテストを受け付けるものとする。大会期間中にプロテストを行わなかったチームについては、預託金10,000円を返却する。
3. 3回目以降のプロテストを行う場合は、プロテスト1件につき追加預託金5,000円を、プロテスト提出時に支払うものとする。
4. プロテストが認められた場合に限り、当該プロテストに係る預託金は返却するものとする。認められなかった場合、預託金は返却しない。
5. プロテストを申し出たチームおよびその関係者（選手・スタッフ等）は、当該プロテストの審議過程に関与することはできない。映像の確認、協議および裁定は競技本部および大会が指定する関係者のみで行い、当該チームは結果の通知を待つものとする。
6. 判定に対するプロテストの申し入れは、以下に定める時間内に限り受け付けるものとする。
 - スプリント：リザルト発表後10分以内

- H2H：リザルト発表後5分以内
- スラローム：リザルト発表後10分以内
- ダウンリバー：リザルト発表後5分以内

7. 競技本部によるプロテストの裁定は最終的なものであり、当該裁定結果に対して再度プロテストを行うことはできない。また、他チームによるプロテストの結果として変更された判定、順位、記録等についても、これを対象とした新たなプロテストは認めない。

ゼッケンの着用

すべての選手は、配布されたゼッケンを大会期間中責任持って管理すること。競技中は必ず番号が認識しやすいように着用する。ゼッケンを着用せずに競技をした場合は、5000円の罰金または10秒のペナルティとする。大会終了後ゼッケンは、大会本部までチームごとに必ず返却すること。紛失した場合にはゼッケン1枚につき5000円をその場で現金で支払うこと。

（11）水位規定

各種目の競技コースは、安全に進行することを考慮し、天候の予測や水位など総合的に判断し、セーフティーディレクター、レースディレクター、大会主催者が協議し最終決定する。各コースでの実施上限水量に関しては、選手ならびにスタッフの安全面を考慮し、実施が困難であると判断される場合はその競技は中止とする。